

WIDE RANGE DODGEBEE COMPETITION

第3回 広域ドッジビーコンペティション
中国・四国大会 2014

実施報告書

平成 26 年 5 月 26 日



目次

1.	開催要項	_____	3
2.	参加チーム／人数 一覧	_____	4
3.	競技方法	_____	5
4.	最終成績	_____	5
5.	全体スケジュール	_____	5
6.	付帯イベント	_____	6
7.	講評	_____	7-9

別途資料

<全試合一対戦結果表>

お問合せは **日本ドッジビー協会 事務局**

住 所 : 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-46-302

T E L : 03-3264-3626

F A X : 03-3264-3627

Mail : support@dbja.jp

1. 【開催要項】

名 称	第3回広域ドッジビーコンペティション 中国・四国大会 2014 West JAPAN DODGEBEE Competition 2014
日 時	2014年（平成26年）5月18日（日曜日） 9：00～17：00
場 所	桃太郎アリーナ（岡山県総合グラウンド内 体育館） 〒700-0012 岡山県岡山市いずみ町 2-1 TEL：086-252-5201
主 催	日本ドッジビー協会
共 催	岡山県子ども会連合会
主 管	岡山県フライングディスク協会
後 援	岡山県 / 岡山県教育委員会 岡山市 / 岡山市教育委員会 公益社団法人 全国子ども会連合会 山陽新聞社
協 力	公益社団法人 おかやま観光コンベンション協会
協 賛	日本テトラパック株式会社 株式会社ヒーロー
種 目	ディスクドッジ／ゴールドドッジ
部 門	すべて年齢／性別 不問 ①ディスクドッジ部門 ②ゴールドドッジ部門
表 彰	各部門 優勝／準優勝／3位 まで表彰

2. 【参加チーム一覧】

最終集計値

チーム名称	地域	チーム構成	選手数
<ディスクドッチ部門>		16 チーム	210 人
YMS	鳥取県西伯郡	大人	14
第二藤田A	岡山市	ミックス	12
第二藤田B	岡山市	ミックス	12
第二藤田C	岡山市	ミックス	13
阿知松子ども会	倉敷市	小学生	10
美作大学 食物学科 A	津山市	大学生	10
美作大学 食物学科 B	津山市	大学生	10
Chinese Taipei	台湾	中学生	16
東鶴山ソフトボールスポーツ少年団A	備前市	ミックス	11
東鶴山ソフトボールスポーツ少年団B	備前市	ミックス	15
高砂アルセウス	兵庫県高砂市	大人	10
BLACK HAWK (岡山大学)	岡山市	大学生	18
さすらいのスカウター	岡山市	ミックス	15
より道スカウター	岡山市	ミックス	12
高梁野外活動スポーツ少年団 A	高梁市	小中学生	14
高梁野外活動スポーツ少年団 B	高梁市	小中学生	18

<ゴールドッチ部門>		8 チーム	54 人
スナフキンズ	倉敷市	中高校生	7
広島経済大 TRUST	広島県廿日市市	大学生	6
つなぎ隊とゆかいな仲間達	倉敷市	大人	8
連東ヤッターズ	倉敷市	大人	7
たじぎん (岡山大学)	岡山市	大学生	6
Enjoy Life (岡山大学)	岡山市	大学生	5
タマゴクラブ (岡山大学)	岡山市	大学生	8
津山JLCカップーズ	倉敷市	高校生	7

※市表記はすべて、岡山県

参加チーム総数 **24 チーム**

参加選手総数 **264 名**

主要スタッフ **42 名**

関係者その他 **約20 名**

大会関与者 総合計 **320 名**

3. 【競技方法】

① ディスクドッチ部門

- 試合時間 : 1試合3分、前後半2セット
予選 : 4チームで構成した4リーグ
決勝 : 予選1位／2位／3位／4位によるトーナメント戦により最終順位を決定。

② ゴールドドッチ部門

- 試合時間 : 1試合7分、前後半2セット
予選リーグ : 4チームで構成した2リーグ
決勝 : 予選各リーグ1位同士による決勝戦
予選各リーグ2位同士による3位決定戦

4. 【最終成績】

① ディスクドッチ部門

- | | | |
|-----|-------------------|--------|
| 優勝 | Chinese Taipei | 台湾 |
| 準優勝 | BLACK HAWK (岡山大学) | 岡山市 |
| 3位 | YMS | 鳥取県西伯郡 |

② ゴールドドッチ部門

- | | | |
|-----|---------------|---------|
| 優勝 | たじぎん (岡山大学) | 岡山市 |
| 準優勝 | タマゴクラブ (岡山大学) | 岡山市 |
| 3位 | 広島経済大 TRUST | 広島県廿日市市 |

5. 【全体スケジュール】

- | | |
|---------------|---------------------------|
| 8:50 ~ 9:15 | 参加チーム 受付 |
| 9:20 ~ 9:50 | 開会式・諸注意事項説明 |
| 10:00 ~ 11:48 | 予選リーグ戦 (10:00 第1試合 スローオフ) |
| 11:48 ~ 13:00 | 昼食／休憩 ドッチディスタンス記録会 |
| 13:00 ~ 13:48 | 予選リーグ戦 |
| 14:00 ~ 16:00 | 決勝トーナメント戦／順位決定戦 |
| 16:05 ~ 16:35 | 表彰／閉会式 |

6. 【付帯イベント】

ドッチディスタンス記録会（報告）

- 選抜方法 : 本大会全参加各チームより2名をチーム代表者が当日、朝、受付で配布する記録証および登録書に記入のうえ、昼の休憩時間内にチーム単位（選抜した2名が同伴）で試技をおこなう。時間内に来場がない場合、辞退と判断。
- 実施会場 : メインアリーナ 第1／第2コート
- 実施時間 : 12:48～12:50（約60分）
- 横幅制限 : 18メートルにて実施
- 試技方法 : ひとり1分以内に3投を試技して、最長試投を計測。
日本ドッチビー協会制定ドッチディスタンス・ルールに準拠。
- 計測方法 : 協会公認測距器を使用。
協会公認マーカー／受光板を使用。
- 参加者数 : 38名
- 日本記録 : 更新なし
- 大会記録 : 男性最高記録 矢山 航己（ヤヤマ コウキ） 27.06 ㍎
女性最高記録 鈴木 茉奈美（スズムラ マナミ） 23.71 ㍎

7. 【講 評】

本大会は、DBJA主催、岡山県子ども会連合会の共催にて広域ドッジビーコンペティションシリーズの第3回大会として、中国・四国大会2014と銘打ち、岡山県岡山市でおこなわれた大会です。

いきなり冒頭からお詫びで申し訳ありませんが、今回四国からの参加チームがなくタイトルの中国・四国が実際と異なった結果となったことは誠に残念、かつ主催者として準備不足を反省しております。申し訳ありませんでした。

中国・四国大会は広域大会シリーズの中で初となる東名阪（大都市圏）以外での開催大会であり、大会の企画当初より地元関係団体やメディアとの連携について、大会全体を俯瞰した際の重要なテーマとして位置付けていました。

結果として、岡山県子ども会連合会との共催や地元への観光事業を担う立場である、おかやま観光コンベンション協会から多大なるご協力を得られたこと。



また、地元メディアにおいては、山陽新聞社に大会への後援名義をいただくとともに大会の紹介と募集告知を開催約1か月前となる4月6日（日）に岡山市内チームの取材写真付きで記事掲載。

次にNHK岡山放送局が5月1日（木）18：10～19：00、岡山ニュースもぎたて！の中で倉敷市のチームを中継で紹介する形で事前告知を。

さらに、瀬戸内海放送は大会翌日となる5月19日（月）16：45～18：53、KSBスーパーJチャンネルのスポーツコーナーで岡山大学チームへの事前および大会当日の取材によりドッジビーを紹介する事後告知をいただきました。これら重要テーマが成果になって表れたことにこの場をお借りして関係各位に心より御礼申し上げます。ありがとうございました。



大会参加チームは地元、岡山県を中心に鳥取／兵庫／広島県より、また今回のメインゲストとも言える台湾を含め、計24チーム、264名の選手とスタッフ関係者約60名、さらに選手保護者および観客等、総合計で約400名超が集まりました。



会場となった桃太郎アリーナのメインホールは80×45メートルと大きな体育館で、ディスクドッジ×2コート、ゴールドドッジ×1コートを設置しても余裕があり、ウォームアップスペースも設定できるほどの広さは壮観！

また今回、前日も体育館を押さえることができたことで会場準備のすべてを前日に終わることができ、当日はコンベンション協会の手配による大型立看板を設置するのみとスムーズな準備ができました。



予定通り8:50には受付開始。混乱もなく、9:20より開会式を実施。



開会式では、大会催にご協力をいただいた団体／企業をご紹介。次に共催者を代表し岡山県子ども会連合会 赤澤会長より歓迎の挨拶ののち、鳥取県から参加した選手による宣誓が、次に台湾チーム代表者よりご挨拶をいただいた後、フライングディスクのデモをお見せして、予定時間通り終了となりました。

昼食休憩の時間帯にはディスタンス記録会をおこない、フライングディスクの幅広い、面白さを伝えることができたと主催者として感じています。



今大会の競技運営上の大きな特徴としてあらゆる選手構成のチームをディスクドッジ種目で1部門、ゴールドドッジ種目で1部門に集約して実施したことが挙げられます。

これは全く初の試みでしたが本音を述べますと、事前の準備段階で部門を細分化することで不成立部門の発生を恐れた側面があったことは否定できません。



しかし、結果としてディスクドッジ部門はドッジビュらしい非常に雰囲気の良い対戦が多く見られた。との意見が出るなど概ね好評であり、いわゆる瓢箪からコマ。状態といえる大会となりました。

一方、ゴールドタッチ部門は大学サークルチーム系と一般系の二つに大別できる構成となりさすがに大学サークルが優位な状況でした。



審判員については、岡山県内各市のスポーツ推進委員の皆さんより 20 名近い皆様にご協力をいただいたこと、およびその他、スタッフとして子ども会役員や吉備国際大学の学生などの皆さんにご協力をいただき、今後の地元普及に繋がるであろうと感じられました。



会場内ではスポンサーのブースも設置されたことでイベントとしての賑わいが演出されるとともに参加賞も配布されて選手に喜ばれていました。



表彰式では両部門の上位 3 チームを表彰、閉会式では協会の各競技統括責任者および代表より今後の展開と御礼の挨拶をさせていただきました。



以後、中国地域での普及発展を願うとともに、今大会の開催がきっかけとなり各チーム間の交流に寄与することができれば幸いです。



WIDE RANGE DODGEBEE COMPETITION

日本ドッジビー協会
代表 稲垣 敬雄